

報道資料

平成16年5月31日
中国電力株式会社
ユニチカ株式会社

ハナビラタケの栽培に関する共同研究の実施について

中国電力(株)およびユニチカ(株)は、このたび、電気利用技術を活用したハナビラタケ栽培に関する本格的な実用研究を開始しましたのでお知らせします。これは昨年11月より、両社が共同で応用研究に取り組んでいたものです。

ユニチカ(株)は、生活健康事業を今後成長が見込める主要事業の一つとして位置付け、鋭意研究開発に取り組むとともに、ヘルスケア製品やハナビラタケ、セラミドなど、健康や美容、更にこれからの高齢化社会に即した商品開発および販売を展開しています。平成14年10月には、非常にデリケートで栽培が困難とされていたハナビラタケの生産に成功し、昨年4月から健康食品〔商品名「白幻鳳凰(びやくげんほうおう)」顆粒スティック包装〕や生鮮食品として限定出荷を、更に昨年9月からは生産増加による本格出荷を開始しています。

一方、中国電力(株)は、これまで電照を利用した柿の栽培や輪菊の周年栽培など、農業分野での電力有効利用技術の開発を積極的に進めてきました。また、遊休設備の有効活用を視野に入れた電気利用技術の研究にも取り組むこととしています。

今回は、更なる生産効率の向上のため、中国電力(株)のこうした研究への取り組みをユニチカ独自の実用規模の栽培法に応用するもので、今後、ハナビラタケの増殖、栽培日数の短縮化・システム化技術を確立し、早期の実用化を目指してまいります。

【共同研究の概要】

- (1) 目的 : ハナビラタケ生産効率の向上および電気利用技術適用範囲の拡大
- (2) 研究期間 : 平成15年11月～17年3月
- (3) 場所 : 中国電力(株)技術研究センター(広島県東広島市)
ユニチカ(株)中央研究センター(京都府宇治市)

(4) 研究内容：中国電力(株)において、高電圧の電気等をハナビラタケの培地に加え、ユニチカ(株)で研究栽培を行う。両社で電気利用技術によるハナビラタケの増殖効果を科学的に検証し、栽培日数の短縮化、栽培システムの実用化を図る。

以上

【参考】

- ハナビラタケ(学名 *Sparassis crispa*)は、標高1千メートル以上のカラマツ等の針葉樹に特異的に発生するキノコで、キノコ愛好家でさえ目にすることが希であることから、幻のキノコと言われている。白色～黄淡色で、直径20～40cmの葉ボタン状に成長する。多数生息しているヨーロッパでは、カリフラワー・マッシュルームと呼ばれ、サラダなどの食材として好まれている。



ハナビラタケには、アガリクス茸の3～4倍の β グルカン^(※)を含むことが知られているが、非常にデリケートなため、その人工栽培は困難とされていた。

ユニチカ(株)は、大阪大学、岩手医科大学との共同研究により、ハナビラタケの抗腫瘍作用、免疫調整作用などを確認している。

また、九州大学大学院の大賀祥治助教授(農学研究院森林資源科学部門)との共同研究により、電気インパルスによる刺激がハナビラタケの栽培に有効であることを確認している。

(※) β グルカンはグルコースで構成される食物繊維の一種。ハナビラタケは、その β -(1,3)グルカンを非常に多く含むのが特徴。